

# 「一つ一つの作業丁寧」

## 土壁工事 宮奥さん思い語る

薬師寺月例

まほろば塾



東塔の土壁工事を振り返る宮奥さん（奈良市で）

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が16日、奈良市の薬師寺で開かれた。解体修理工事を終えた国宝・東塔について学ぶ全3回の最終回で、左官頭領として工事に携わった職人、宮奥淳司さん（54）が講演し、約90人が熱心に耳を傾けた。

宮奥さんは宇陀市出身

で、工事では土壁の施工を担当。木材の下地に絡ませるように壁土を塗る「荒土壁」、さらにきめ細かな壁土を重ねる「中途」、仕上げの「漆喰」などの工程を

解説し、「一つ一つの作業を丁寧に重ねることで、美しい白壁ができた」と話した。

工事が終わり、東塔を覆う素屋根が外され、参拝者が塔の写真を撮っている姿を見たとき、「『お待たせしました』という思いと、言葉に言い表せない喜びを感じた」と振り返った。

講演は、8月中旬にまほろば塾ホームページで配信される（有料、まほろば塾推進の会会員は無料）。次回は8月20日、大相撲の鳴戸親方（元大関琴欧洲）が講演する。